

国立国語研究所学術情報リポジトリ

米国議会図書館蔵『源氏物語』書入一覧（附「薄雲」巻末注記）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002612

米国議会図書館蔵『源氏物語』書入一覧(附「薄雲」卷末注記)

神田 久義・斎藤 達哉・小木曾智信・高田 智和

本表は、米国議会図書館蔵『源氏物語』の原本調査において確認し得た傍記等の書入の類を、一覧にまとめたものである。

本報告書の「米国議会図書館蔵『源氏物語』について」にも触れられている通り、この写本には、不審紙や付箋の跡が確認できるが、それらの精密な調査にはさらなる時間を要する。そのため本一覧表では、本文料紙への書入のみを対象としている。

本一覧表は、平成二十三年度から平成二十四年度にかけて、米国議会図書館にて行った三度の原本調査の成果である。調査は高田智和・齋藤達哉・小木曾智信・豊島秀範・伊藤鉄也・菅原郁子・神田久義が行った。

一覧表の見方

- 1、一覧表は、「通し番号」「巻名」「丁」「表裏」「行」「対象本文」「書入内容」「備考」の八欄で構成した。
- 2、書入箇所の場合は、「巻名」「丁」「表裏」「行」の欄をもって示した。各欄の読み方は、以下の通りである。

〔巻名〕 01 桐壺……第一巻「桐壺」巻

〔丁〕 6 ……第六丁

〔表裏〕 才 ……表

ウ ……裏

〔行〕 11 ……十一行目

3、「対象本文」欄は、書入の対象となっている本文の翻字を掲げた。対象となっている箇所を「」で括り、文意が把握できるように、その前後の本文も適宜翻字し、掲載した。なお、翻字は本報告書の「米国議会図書館蔵『源氏物語』翻字本文」の凡例に概ね従うが、改行箇所には「/」を入れ、これを示した。

4、「書入内容」欄には、書入されている文字の翻字を掲げた(3同様、「米国議会図書館蔵『源氏物語』翻字本文」凡例に従う)。ただし、翻字だけでは説明の難しい書入の場合には、文章をもってこれを示した。例えば、

左傍に「止」、および右傍に「よ」

の如きである。右の場合、「」内が翻字である。

5、「備考」欄には、その書入の性質および特記すべき事項について付言した。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	通し番号
02	02	02	02	02	02	02	01	01	巻名
帯木	帯木	帯木	帯木	帯木	帯木	帯木	桐壺	桐壺	
25	24	23	23	23	22	7	9	5	丁
才	才	ウ	才	才	才	才	ウ	ウ	表裏
3	3	9	6	4	3	8	1	3	行
女ふみに【なかは】すきて	此【かう】をなん	さるへからん【さうし】とは	【むさひ】の人	その物を【し】として	【ほう】けつきて	なよひかに【をんな】し／と見れば	／みや木のゝ露ふきむすふ風のをとにこはきかもとを ／おもひこそやれ	かきりとてわかるゝみちのかなしきにかまほしきは ／いのちなりけり	対象本文
半	香	雑事	無才	師	法	女	きりつほのみかと	更衣	書入内容
漢字注記。	漢字注記。	漢字注記。	漢字注記。	漢字注記。	漢字注記。	漢字注記。	朱墨。詠者の注記。	朱墨。詠者の注記。	備考

18	17	16	15	14	13	12	11	10
03	03	03	03	02	02	02	02	02
空蟬	空蟬	空蟬	空蟬	帚木	帚木	帚木	帚木	帚木
8	6	4	3	37	31	27	27	26
ウ	ウ	才	ウ	才	才	ウ	ウ	才
2	5	2	1	4	8	8	7	7
わたり【たまふて】けり	【わう】のおもとなめり	【こたみ】はつま戸をたゝきて	【こ】たひはまけにけり	まいるとて御【かへり】こふ	たゝ／いままいらんと【さふらふ】といふ	しん【てん】のひんかしおもてを	【かみ】にはかにとわふれと	人の御けはひも【けさやかに】みたれたる
給にイ	みふイ	此たちイ	此イ	返	侍	殿	守	けかう
異本注記。	異本注記。	異本注記。「此たひ」の誤写か。	異本注記。	漢字注記。	異本注記。	漢字注記。	漢字注記。	異本注記。「けたかう」の誤写か。

27 06 末摘花	26 05 若紫	25 05 若紫	24 05 若紫	23 04 夕顔	22 04 夕顔	21 04 夕顔	20 04 夕顔	19 04 夕顔
8	23	18	6	36	18	13	7	5
ウ	オ	ウ	ウ	ウ	ウ	オ	ウ	オ
8	3	4	9	9	5	1	9	3
ちゝ君にもかゝる事なども【まねは】さりけり	【ん】さふ／らふ人々のをろかなるこそ【さいなみたまは	とり／＼の【さえ】ともならひ給ひいとまなし	御心を【よりせさせ】たま／ひぬへし	もしす【り】やう／ことものすき／しきか	心／くるしき御【もてなし】を	ほゝゑま【れ】給て	【たとへし】ならんは	【こ】たちせんさいなと
いはイ	まいなさんイ	オ	よせさせイ	まい	ありさまイ	せい	なのめイ	木
異本注記。	異本注記。	漢字注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	漢字注記。

36	35	34	33	32	31	30	29	28
12	12	12	12	12	10	07	07	06
須磨	須磨	須磨	須磨	須磨	賢木	紅葉賀	紅葉賀	末摘花
24	21	20	20	3	30	17	9	19
才	才	ウ	才	才	才	ウ	ウ	才
9	9	10	3	7	9	10	1	9
かの【御すまゐ】には恋しきまゝに	【みふ】のたゆうこれみつ	釈迦牟尼仏の【てし】	【きん】をすこしかきならし／給へるか	まして【かく官しやく】をとらすあさはかなる事に	世にわつらはしき【事とも】やう／＼いひ出る／人もあるへし	きみに【はた】ひきとおられぬるおひなれはかくてたえぬる／中とかこたむ	宮は【かゝる】に／つけても	いま見つけら／れなんと【わり】なうおほす
山里イ	民部	弟子	琴	かうしもつかさなどイ	「	かくイ	いかなるイ	すへイ
異本注記。	漢字注記。なお、「これみつ」も字がやや小ぶり。	漢字注記。	漢字注記。	異本注記。	鉛筆による。「事」と「とも」の間に「」を書く。	異本注記。	異本注記。	異本注記。

45	44	43	42	41	40	39	38	37
14	13	13	12	12	12	12	12	12
濤標	明石	明石	須磨	須磨	須磨	須磨	須磨	須磨
13	27	8	30	30	30	28	27	24
ウ	ウ	才	才	才	才	才	才	ウ
10	6	1	6	6	5	10	3	10
こと／＼しけなるすい【しん】くしたる蔵人也	十五夜／＼の月おもしろ【く】	むつまじき御いのりの【し】とも	いましはし【かく】／＼あらは浪にひかれて	おほくたてける【くわん】のちからなるへし	のとやかに【きやう】打すしておはす	【さいしやう】さらにたちいてんこゝちせて	【く】をすし／＼給しも	むかし【ここのく】につかはしけん女を
身	うイ	師	／＼	願	経	宰相	句	胡国
漢字注記。	異本注記。	漢字注記。	「いましはしいましはしかく」とする異本注記か。	漢字注記。	漢字注記。	漢字注記。	漢字注記。	漢字注記。

54	53	52	51	50	49	48	47	46
22	22	22	21	21	20	19	19	15
玉鬢	玉鬢	玉鬢	少女	少女	朝顔	薄雲	薄雲	蓬生
23	10	1	31	11	12	22	4	7
ウ	オ	ウ	ウ	ウ	オ	ウ	オ	ウ
4	8	6	7	7	9		9	9
【女】になるまですきにけるを	【こし】とてはやくおやの／かたらひし大とく残れるを	少弍になりていき／ければ【くたりにけりかの】わか君の	【かくところ】とをくっておほつ／かなければ	御きちやう／のうしろにかしらを【つとへたり風の】ちかう	【らう／＼】しき事も見／えたまはさりしかと		御くしあまそきの程にてゆ【う】／＼と	さひしき事かきり／も【なしひたり】みきりのとも
をふな	五師	「	楽所	「	りやう／＼とも	聞云……	らい	「
異本注記。	漢字注記。	「赤鉛筆による。「かの」の間に「くたりにけり」と書く。	漢字注記。	「青鉛筆による。「つとへたり」と「風」の間に「」を書く。	表記に関する注記。	巻末の引歌注記。本表末の附表を参照のこと。	異本注記。	鉛筆による。「なし」と「ひたり」の間に「」を書く。なお、「みきり」は本のまま。

63	62	61	60	59	58	57	56	55
34 若菜上	34 若菜上	34 若菜上	34 若菜上	34 若菜上	34 若菜上	30 藤袴	23 初音	22 玉鬘
10	6	6	6	5	5	5	8	29
ウ	ウ	オ	オ	ウ	ウ	ウ	オ	ウ
8	9	2	1	9	6	9	9	4
あやしう物はかな【き】さまなとも	その思かな／ひてはゆるく【こと】侍らし	り【ひと】つあまりてや宰相にて近衛の中將かけ給へ	さる帝王の【いのちにかけて】おほしたりしかと	何事もさきの世【の契りゆかしう思やられたる】	是をいふへきにやと／見ゆる【かたち】などそひに たる	かのおとゝも人め【かい／＼】かすまへ給なめり	く【よきに】おり／＼かさねて心まとはし給し世のむ ひ	よろつのさうしうた【まくら】よくあなひしり
ひイ	かたイ	ふた	かきりなくかなしき物にした まひさはかりあかてかしたつき 身にかへて	をしはかられてイ	にほひイ	中／＼イ	つねにイ	枕
異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	漢字注記。

72	71	70	69	68	67	66	65	64
34	34	34	34	34	34	34	34	34
若菜上	若菜上	若菜上	若菜上	若菜上	若菜上	若菜上	若菜上	若菜上
46	46	46	45	45	37	37	22	15
才	才	才	ウ	ウ	ウ	才	ウ	才
2	2	1	8	4	2	6	6	5
ふたいの【さう】／につかう人のひらはりうちて	【ふたい】のさう／にかく人のひらはりうちて	みこたちかんたちめ左右に【おとゝ】式部卿官をはしめ	めつらしき【さんすひ】のさまなとめなれす	からの／【ち】のすそこおほひしたり	せきとめかたきしみつにてゆきあふ【みち】は／はやくたえにき	【へいなかまね】ならね／と	御ゆするつき【かゝけ】のはこなど	をくり物とも人／のろく【そのほか】の大臣の御ひきて／物とも
左右	舞台	大臣	山水	きイ	さかイ	いくはくイ	硯イ	尊者イ
漢字注記。	漢字注記。	漢字注記。	漢字注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。

81	80	79	78	77	76	75	74	73
34	34	34	34	34	34	34	34	34
若菜上	若菜上	若菜上	若菜上	若菜上	若菜上	若菜上	若菜上	若菜上
50	50	49	49	49	46	46	46	46
ウ	オ	ウ	オ	オ	オ	オ	オ	オ
3	2	7	4	4	7	6	6	5
【ゑう】の人下の物まてろくなと大将／給ふ	世にかたき物の上【す】におはして	左右のむまつかさより【ろくよう】の／かみよりつき ／＼ひきとゝのふる	頭中将せんしうけたま／はりてきやくしくはへたり 左右のおとゝ大納言に【二ところ】中納言三／人さ いしやう五人	頭中将せんしうけたま／はりてきやくしくはへたり 【左右のおとゝ】大納言に二ところ中納言三／人さ いしやう五人	めなれぬ【まひ】のさまなれは	こま／のらんしやうして【らくそん】かゝやき出た るも	こま／の【らんしやう】してらくそんかゝやき出た るも	まんさいしやうらく【わうしやう】などまいて
六衛府	手	六衛府官人	ふたりイ	みこたち五人有イ	舞	落蹲	礼声	皇聲
注釈。	漢字注記。	漢字注記。	異本注記。	異本注記。	漢字注記。	漢字注記。	漢字注記。	漢字注記。

90	89	88	87	86	85	84	83	82
35	35	35	35	35	34	34	34	34
若菜下	若菜下	若菜下	若菜下	若菜下	若菜上	若菜上	若菜上	若菜上
68	55	23	21	20	71	69	57	51
ウ	オ	ウ	オ	オ	オ	ウ	ウ	オ
6	8	5	2	5	7	1	4	6
御まへに出る程／【ほとけかうと】いふ物あそひて	こと葉つかひきえ／とたかうへくも／あらぬ事とものみ【あり】	あやしう人のさへにはかなく【執】する事物の／はへありて	こなたかなたにかけて【ほのかなる】程にともさせた／まへり	此御まこの【君たち】いとうつくしきとのゐすかたにて	おとゝ【かんたちめ】も／えおさめさめるを	れと【たいのうへ】のようゐけしきの／こゝらの年へぬ	みつからの身は【ひかり】にあたらす	ほ【しけいさの御かたちかつき／給ぬるにより】御すうとのにて正月一日より
仏遊霞とイ	なりイ	とりイ	火よきイ	大夫イ	弁官	紫	そのイ	きりつほの御かたちかつきぬゐきたりイ
異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。	異本注記。示す。「そのひかり」の異文を	異本注記。

99 39	98 39	97 38	96 38	95 38	94 36	93 36	92 36	91 36
夕霧	夕霧	鈴虫	鈴虫	鈴虫	柏木	柏木	柏木	柏木
30	15	3	3	2	20	15	7	5
才	才	ウ	ウ	才	才	ウ	才	ウ
2	3	5	2	3	1	11	4	3
かつねなき世のつれ／＼をもなくさむへき【そ】は大かた物のこゝろを／＼しらす	給おほ【い】殿のわたりに思のたま／＼はん事と思しみる	よたけきさき事【いと】心していひつゝけたる	かうしのいとたうとく／＼【こと】の心申て【】	かうしもうのほり行【幸】の人／＼まいりつとひ	五十八をとをとりすてゝたる御【け】はひ／＼なれと	いかなる【さう】けんなどのありけるにか	たゝ大【空】の御とふらひのみそありける	れいはむ【こ】にむかひす／＼へてすゝることをさへ
右傍に二つの圏点	右傍に「止」	本行中に補入符、および右傍に「後を」	■ ■ ■	左傍に「止」、および右傍に「香」	左傍に「止」、および右傍に「よ」	さんイ	ソフ	右傍に二つの圏点
圏点により濁音であることを示す。	ミセケチによる本文訂正。「おほい殿」を「おほ殿」に改める。	補入による本文訂正。「さき的事」を「さきの事後を」に改める。	頭注の痕跡が確認できるが、付箋の剥がし跡と重なっており、判読できず。	本文訂正。「行幸」を「行香」に改める。	本文訂正。「けはひ」を「よはひ」に改める。	異本注記。	訓。	圏点により濁音であることを示す。

108 44	107 44	106 44	105 43	104 41	103 40	102 40	101 40	100 39
竹河	竹河	竹河	紅梅	幻	御法	御法	御法	夕霧
24 才	16 ウ	2 ウ	1 才	1 才	4 ウ	2 才	1 ウ	30 才
7	6	5	6	2	8	1	9	9
たひ／＼御けしきありと／人の【聞】ゆれは	たゝ人には【ある】ましき物にこ殿のおほしをきて たりし	【此】世のすゑにてや御らんしなをされまし	【後】のおほきおとゝの御むすめまきはしら	かなしさのあらたまるへくもあらぬに【とに】はれ いのやうに	な【た】いめんなどを聞給にも	【をくれたまひぬへかめり】御ゆるしなくて	中／＼山水のすみか【にこりぬ】へくおほしとゝこ ほる	昨日／けふとおもふ程に【みちとせ】よりあなたの 事になる世にこそ
ツケ	本行中に補入符、および右傍 に「かけて」	左傍に「止」、および右傍に 「子ノ」	ノチ	「の」の右傍に「の」	右傍に二つの圏点	■ ■	「こ」の右下に「モ」	みとせイ
異本注記。「聞ゆれは」に対して 「つけ聞ゆれは」の本文を示す。	補入による本文訂正。「あるまし き」を「かけてあるましき」に改め る。	ミセケチによる本文訂正。「此世」 を「子の世」に改める。	訓。「チ」の右傍に点あり。	異本注記。「とには」に対して「と のには」の本文を示す。	圏点により濁音であることを示す。	頭注の痕跡が確認できるが、削られ ており、判読できず。	異本注記。「にこりぬ」に対して 「こもりぬ」の本文を示す。	異本注記。

117	116	115	114	113	112	111	110	109
47	47	47	46	46	46	44	44	44
総角	総角	総角	椎本	椎本	椎本	竹河	竹河	竹河
37	8	5	16	5	3	30	30	29
才	ウ	ウ	ウ	ウ	才	才	才	才
8	7	4	5	8	1	2	2	7
六条院には「右」のおほ／いとのかたつかたにすみ 給て	旅のやとりのあ「りさま」など人のかたる	あしさまにはきこえしと「まかて」やは見たまはぬ	人／＼きこえしら／「す」	三の宮そなを見「て」はやましとおほす御心ふかか りける	ひとりこき出たまはんふ「た」わたりの程もかろら かに	たいきやう／ゑかのき「ん」たちなとあまたつとひ たまふ	たいきやう／ゑ「か」のきんたちなとあまたつとひ たまふ	かひなく「あわの」御ことはりやとうちわらひて
「右」の右下に「リ」	るやうイ	「か」の右下に「せ」	右傍に一つの圏点	右傍に二つの点	左傍に「止」、および右傍に 「な」	「ん」に重ねて「止」、およ び右傍に「ミ」	右傍に二つの圏点	「わ」の右下に「れ」
「ひだり」と読ませる異本注記か。	異本注記。	補入による本文訂正。「まかて」を 「まかせて」に改める。	圏点により清音であることを示す。	点により濁音であることを示す。	ミセケチによる本文訂正。「ふたわ たり」を「ふなわたり」に改める。	ミセケチによる本文訂正。「きんた ち」を「きみたち」に改める。	圏点により濁音であることを示す。	異本注記。「あわの」に対して「あ われの」の本文を示す。

126	125	124	123	122	121	120	119	118
49	49	49	49	47	47	47	47	47
宿木	宿木	宿木	宿木	総角	総角	総角	総角	総角
22	19	19	4	62	59	48	47	46
才	ウ	ウ	ウ	才	ウ	才	ウ	才
4	9	8	1	8	7	9	4	8
し【此】君にいとよくに給へらむ時にうれしからんか	いまめかしきに【すゝ】み給へる御心なれば	【夕かた】しんでんへわたり／たまひぬ	かゝる事を【右】のおほい殿ほの間給て／六の君はさりとも	【打】わたりにもきこしめして／いとあしかるへきにおほしわひて	【け】をしへむおにもかな	【かなひ】を枕にてね給へるに	【左】のおほい殿の／ひめ君をあはせたてまつり給ふへかなる	なうらみきこえ給【そ】なとをしへきこえ給へは
こ	「す」と「ゝ」の右傍にひとつずつ圏点	「夕」の右下に「ツ」	ヒタリ	内	偈	「な」の左下に雁点、「および」の右傍に「イナ」	ヒタリ	ない
異本注記。	圏点により清音であることを示す。	異本注記。「夕かた」に対して「夕つかた」の本文を示す。	異本注記。	漢字注記。	漢字注記。	本文訂正。「かなひ」を「かひな」に改める。	訓。	異本注記。

135	134	133	132	131	130	129	128	127
51	51	51	50	50	49	49	49	49
浮舟	浮舟	浮舟	東屋	東屋	宿木	宿木	宿木	宿木
33	24	18	42	1	40	38	26	23
ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
7	8	3	5	3	3	9	1	3
あやしくておはしところたつねら／れ「給も」あり ときこえきかし	けにと思ひて「うつきて」ゐたる	えんなるかたはさる物にて「ゆすゑ」なかく人／の たのみぬへき心はへなと	里の名もむかしなから「も」見し人のおもかはりせ る／ねやの月かけ	おなし【事】おもはせて／もありぬへき世を	いとたうとき事ときこえ／しら【す】むかしの人の ゆへある御すまゐに	仏にならんはいと【よこ】なき	すこし打はらはせ侍らんかしと【きこえ】給へはし はしいりさして	も 三条殿はらの大【君】を春宮にまいらせ給へるより
「給」の右下に「目」	「う」の右下に「な」	「ゆ」と「す」の間に「く」	にイ	子	「す」の右傍にひとつの圈点	「よ」と「こ」の間に雁点	「き」の右上に補入符、およ び右傍に「心トリ三」	ミヤ
「補入による本文訂正。「給も」を 「給目も」に改める。	補入による本文訂正。「うつきて」 を「うなつきて」に改める。	本文訂正。「ゆすゑ」を「ゆくす ゑ」に改める。	異本注記。	異本注記。	圈点により清音であることを示す。	本文訂正。「よこなき」を「こよな き」に改める。	補入による本文訂正。「きこえ」を 「心とりにきこえ」に改める。	異本注記。

139	138	137	136
52	52	52	51
蜻蛉	蜻蛉	蜻蛉	浮舟
18	14	2	35
才	才	才	ウ
3	1	9	10
木の／＼も又うきふるさとを「か」れはてはたれやとり	さる【つみ】におほられけんとおほし／＼やるに	時かた【いきて】けしき見たしかなる事とひきけと	人の御程／＼につけて侍事也【しぬる】／＼まさるはちなる事も
あい	水	「い」の右下に「て」	「る」の右下に「二」
異本注記。	異本注記。	異本注記。「いきて」に対して「い てきて」の本文を示す。	補入による本文訂正。「しぬる」を 「しぬるに」に改める。

聞云 宿かへて松にもあらすなりぬれはつらきころのおほくもあるかな 恨てのちさへ人のつらからはいかにいひてかねをはなれなまし 世中は夢のわたりのうき橋か打たしつゝ物をこそおもへ ふか草のへの桜し心あらは春はかりすみそめさけ ふるさとのむかし煙のいかせん君たにこめよななき契りけり むすほれもえしからすはあらねとも秋のいふへはあやしかりけり いつとて恋しからすはあらねとも秋のいふへはあやしかりけり	附表 19 「薄雲」 卷末注記 (46)
	※これは、「薄雲」の卷末に付された引歌に関する注記である。開書の類からの転載であろうと思われ るが、未詳。この類の書入は、米国議会図書館蔵 『源氏物語』において、「薄雲」にしか確認できな い。